

## 三菱UFJ銀行

北京師範大学学生代表

見学日時：2018年12月3日（月） 9:30-11:00

見学場所：三菱UFJ銀行

### 見学概要

三菱UFJ銀行到着後、私たちは会議室において同銀行のスタッフより歓迎を受け、その後PR資料や銀行側の解説により三菱UFJフィナンシャル・グループ（MUFG）、三菱UFJ銀行及びMUFGバンク（中国）有限公司の基本概況について理解を深めた。その後、同銀行の中国人従業員である王女史より新人研修システムについての紹介があり、さらに私たちからの様々な質問に回答を頂いた。



### なぜですか？

問：三菱UFJ銀行では新入社員を募集する際、新卒の学部生と大学院生のどちらを重視しているのか？

答：整った専門的な研修システムがあるため、新入社員の募集においては新卒の学部生を優先する傾向にある。

問：変化の激しい国際金融市場において、三菱UFJ銀行はどのようなリスク対策をとっているのか？

答：三菱UFJ銀行は金融リスク防止の問題を非常に重視している。各部署はいずれもリスク対策のシステム規則を厳しく守っており、各従業員が自身の行為を規範化することで発生の可能性のあるリスクへの優れた対応を行っている。また国内外のいずれにもリスク対応専門の人材システムを設けるなど、十分な対応措置を整えている。

問：一国の全体的な経済発展にとって、小規模の銀行により多くの発展の機会を与えるのと、小規模の銀行の数を適度に制限するのでは、どちらが経済の健全な発展に有益なのか？

答：各国の国情の違いにより異なる方式があると考えられる。しかし小規模の銀行に多くの発展の機会を与えることは、零細企業や個人にとっては融資における利便性が高まると言える。



## 感想

三菱UFJ銀行での見学では、王女史から三菱UFJ銀行を含む多くの日本企業では新入社員研修を非常に重視しており、整った新人研修システムにより、卒業したばかりの大学生が業務に必要な様々な基本的技能を学び企業の戦力となっているとのお話があった。それ以外にも、こうした研修制度の存在により、企業は安心して新卒生を起用でき、応募者の専攻を問うことなく、応募者自身が企業の求める素養を持っているかを重視している。こうすることで、社会に足を踏み入れていない大学生が迷いや焦りを感じる事がなくなる。そして学問から就職そして入職のプロセス全体において安定した印象を与える。これもまた私たちのこれまでの日本企業への印象と合致する。だがそれと同時に、中国国内の新卒の学部生の就職状況が依然として厳しく、学部生の段階は多くの学生にとって足がかりに過ぎず、その中の大部分の学生が大学院での学問を選択する理由は卒業後により良い仕事に就くため、学術的な研究の目的からではないことを私たちは知っている。私たちはこうした現象から、中国の企業が人手を必要とする際に真に重視するのは何か、そして中国の大学生が学部生の段階でどういった能力を重点的に高め、どういった能力が疎かになっているのか、日本企業の新人研修制度は中国の企業にとって参考とする価値があるのではないかについて考えるべきではないだろうか。

その他、三菱UFJグループ全体の「おもてなし」の思想はとても印象深かった。日本が独自に生み出した「おもてなし」という言葉には、人と接する際の正しい行動基準、即ち、常に相手の立場に立って物事を考え、文化的に違いは違いとして尊重しながら共通点を探り、行動の背景にある深層的な意義を本質的に理解するという意味が含まれている。